

羽ばたけ! TUT2020 報告書

参加プログラム	フリープラン
研修期間	2021年 3月 16日 ~ 2021年 3月 27日
研修先機関名	サンディエゴ州立大学 アメリカ合衆国
プログラム名	Business & SDGs オンラインプログラム
研修内容	
<p>① 参加の目的や動機</p> <p>Business&SDGs オンラインプログラムに参加し、幅広いビジネスに関する知識を学び、職場におけるジェンダーの問題、性別の認識と固定観念など、人権問題についてグローバルな視座を得たいと考えた。さらに、学んだ知識をもとに、多様な社会問題に対して意見を持つ個人になりたいと考えた。</p> <p>② 研修内容</p> <p>グローバルなビジネスにおけるフェアトレードの問題やジェンダーの問題、環境問題などの課題について学びながら、総合的な英語力を高めていくプログラム。</p> <p>1. フェアトレードと自由貿易の違いは何か、自由貿易協定における世界的、環境的、人的な影響について。株式会社と個人事業主は何が違うのか、様々な事業形態におけるビジネスの長所と短所は何か。社会的責任の違いは何か。</p> <p>2. 職場におけるジェンダーの問題は何か。搾取されやすい性があるのはなぜか、どう乗り越えていけばよいのか。性別の認識と固定観念について。性的指向と性自認とは何か。なぜセクシャルマイノリティーは抑圧されてきたか。</p> <p>3. 環境に配慮した生活とは何か。地球環境を守るうえで個人にできることは何か。環境問題と企業が果たすべき責任とは何なのか。</p> <p>4. Product (RED) の功罪について。企業イメージと実際の社会貢献度のギャップについて。社会的起業におけるセレブリティの役割について。</p> <p>5. SDSU で日本語を学んでいる学生や、将来日本で働きたいと考えている SDSU の卒業生との交流。</p> <p>③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初設定した行動目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に現地の学生とコミュニケーションを図り、交流を深めたい。 2. 専門外の知識であるビジネス分野において講義のみならず自主的に情報を集める良い機会としたい。 ・達成度 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内ではグループワークの時間が多く設けられた。グループワーク内では現地の学生や社会人 (OB) の方がモデレーターとして司会進行を務めた。講義自体はテキストを読み設問に答えていくという形式をとり、一つの問題に対して各々が意見を出し合いながら、課題・問題の理解度を高めていくというとても有意義な内容だった。現地の学生とのコミュニケーションという 	

意味では、お互いの文化について会話するなどといった機会は少なかったが、同じ課題について話すうえでお互いの価値観の違いに気づかされる場面が多くあった。

2. 英語でビジネスやジェンダーイコオリティー、環境問題と企業の社会的責任、Product(REDD)などの社会的起業について学ぶことは、私にとってかなり難易度の高いことだった。多くの場合、知らない単語や概念にぶち当たり、予習なしでは授業に望めないほどだった。そのおかげで、授業外に予習復習の時間を取り積極的にニュースをチェックする習慣が身についたと感じる。

昨今のコロナ禍という新たな環境に対する副作用として、米国でのアジア系人種に対するヘイトクライムなどが問題として噴出しているが、いままで見過ごしがちであったそのような社会問題への関心が高まったと感じる。

④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

研修後に実践する行動目標

1. 今後、海外に行く機会があれば、積極的に参加したい。

2. 職場におけるジェンダーの問題、性自認と性的指向の問題など、既存の枠組みから外れた存在や不利な立場にある人々について考え、社会の一部の個人としてそれらの問題に主体的にかかわっていく。

1. 今後も海外に行く機会があれば積極的に参加したい。またその時のために英語力を日常的に鍛える必要があると感じる。

2. 職場において多くの場合不利な立場に置かれる女性や、社会の中で十分に包摂されていないセクシャルマイノリティーに関する知識をつけることで、問題の本質は何なのかといったことを考えることが重要であると思う。また、そのような考えに基づいて自身の行動を変えていきたいと思う。

⑤ その他感想など

初めに、今回のようなオンライン留学の機会をくださったことに深く感謝申し上げます。今回のオンライン留学で改めて、自身の英語力の低さに気づかされました。講義内で意見を求められたときに適切な回答ができないという場面が多くありました。一方で、教授や学生ボランティアの方々には、間違っただけでも誠実にフォローしようとして下さりその姿勢に多くの場面で勇気付けられました。

このオンライン留学で学んだことは、適切に恥をかくことの重要さではないかと考えています。例えば、日本にいと多くの場合、日本語を使用するので英会話能力の必要性を感じにくいという側面があります。このことが、一方で英語を学ばなければならないという危機感をマスキングしてしまう要因なのではないかと考えます。そういった意味では、英語の習得を目的とするならば、否が応でも英語を話さなければならない環境に身を置くことの重要性に改めて気づかされた2週間となりました。

一方で、今回のオンライン留学は語学学習が主な目的ではないことを忘れてはならないと思います。特に日本語という文化圏では海外の情報に触れる機会が意外に少ないのではないかと考えます。確かにSNSやインターネット技術は限りなく情報を得るコストを下げましたが、その反面である一定の信頼性のある情報にたどり着くためには多くの労力が必要となるという今日的状況があります。そのような点では、今回のオンライン留学で、アメリカの特にサンフランシスコの学生や教授陣がどのように社会問題をとらえているのかを知れたことはとても有意義なことでした。また、環境問題への意識の違い、性の多様性についてのとらえ方の違いなど、ネットや

ニュース番組で得る情報とは別に、市井に生きる一般の方の考え方を知るといふことの重要性を改めて感じました。